

# 「場所の原風景 高沼田んぼ見沼田んぼ再生都市 ヒートアイランド対策水緑保全再生活用」

宇杉和夫・大村進・青木義脩（さいたまの森アーカイブ）

現在のまちづくりにとって地域に共有できるコモンイメージを継承することは極めて重要な問題になっています。都市と地域の原風景、都市の原形を再確認・共有することも新たな生活空間・都市空間形成の課題になっています。このような立場で一昨年に「場所の原風景 埼玉会館・県立浦和図書館」を開催しました。今回はさいたま市の中央と東部に広がる高沼の原風景、見沼の原風景には田んぼがかかせないとして、また昨今大きな問題となっているヒートアイランド対策の有効な手法として、高沼と見沼の田んぼを再生することを提案するものです。

埼玉県は西部の山地を除いて、台地と低地が組み合わされた平野が広がっており、県は河川水路と緑の複合的な景観形成を目標にし、さいたま市は荒川と見沼の東西の水緑コリドール構想を柱にしています。一方、中心市街地には都市整備の多くの課題もありますが、高沼市街化調整区域には「高沼用水河童の森」をはじめ、市民参加の環境保全・環境デザインも始っています。今回はこのような背景の中で日本大学宇杉研究室学生が「高沼・見沼田んぼ再生都市構想」を提案しているので、これを中心に高沼地区を中心として地域の原風景とその保全・活用について展示しみなさまのご意見をうかがうものです。

地域に継承されてきた空間システム・景観システムを尊重するまちを形成・創生していくには地域・地区の原風景となってきた空間的記録を収集・展示・解析・交流・継承する活動が重要と認識し、「さいたまの森アーカイブ」活動を開始しました。今回は高沼の環境に意志と活動をお持ちの方々と連携して下記の展示会を企画します。高沼・見沼の地はさいたま市・埼玉県の空間形成の上で常に人々の中心となってきた象徴的な場所であり、多くの方々が共有できる体験空間の蓄積があります。この共有できる空間体験の背後に歴史的経過とその反映があることを知り、それを次の若い世代に伝え、交流を図ることは価値多いものと考えます。

期間 2009年3月3日（火）～3月15日（日）

主催：さいたまの森アーカイブ

共催：埼玉県立浦和図書館（卒研展示会会場）  
日本大学宇杉研究室（展示担当：渡辺将智・建築学科4年）  
日本建築学会都市形成・計画史小委員会

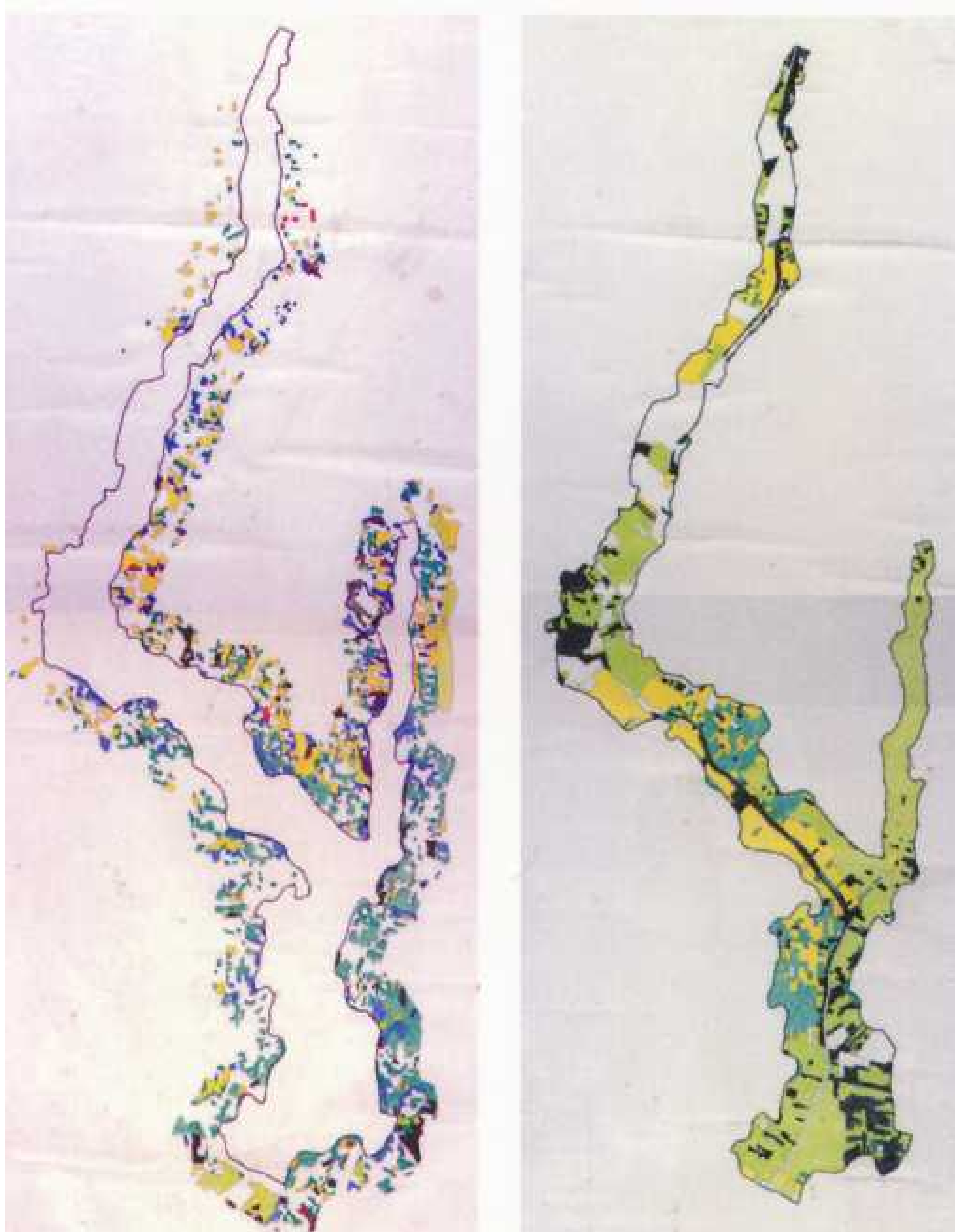
協力：埼玉県立文書館

後援：埼玉県（県土整備部）  
さいたま市（都市局）  
埼玉県住宅供給公社

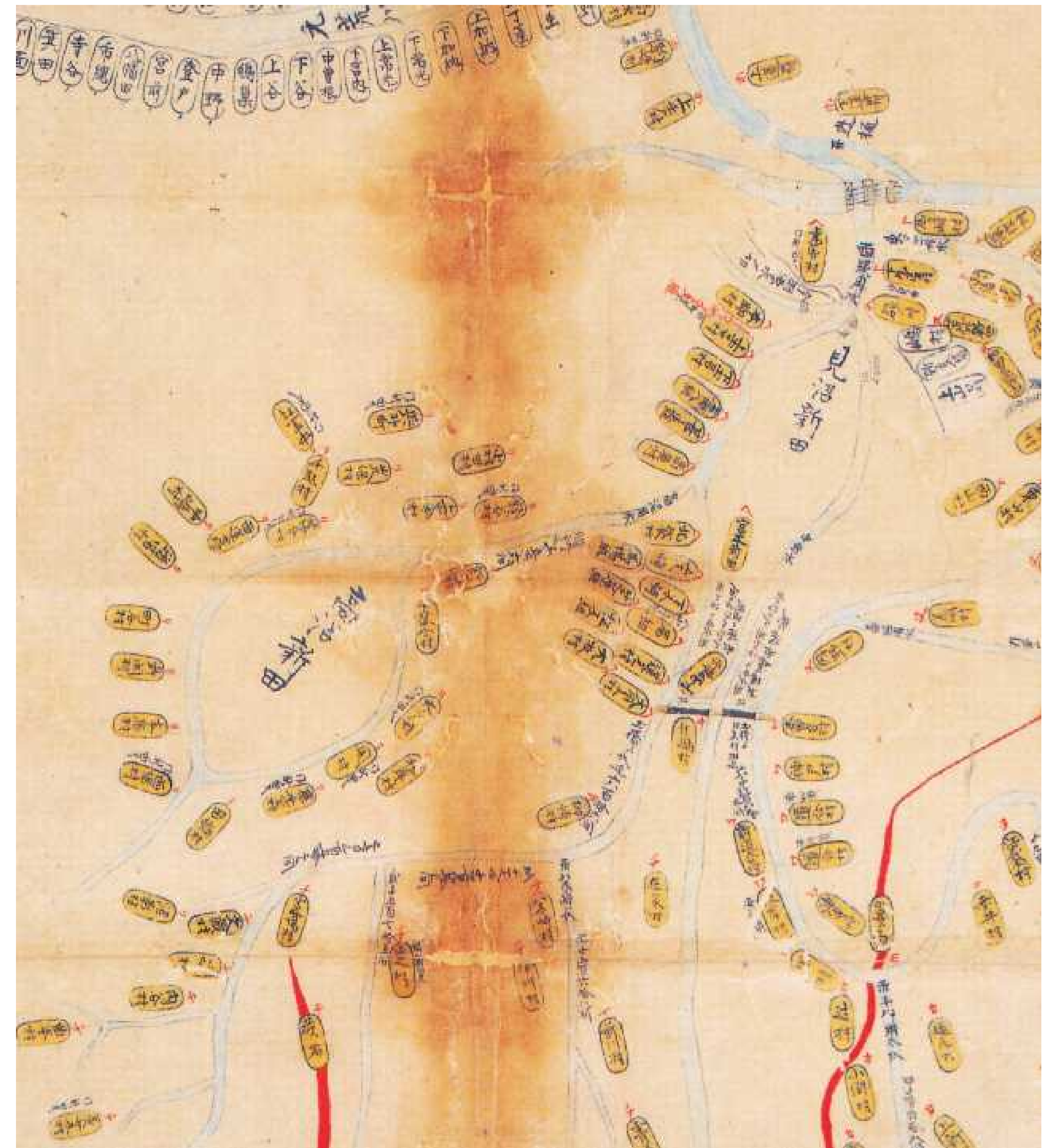
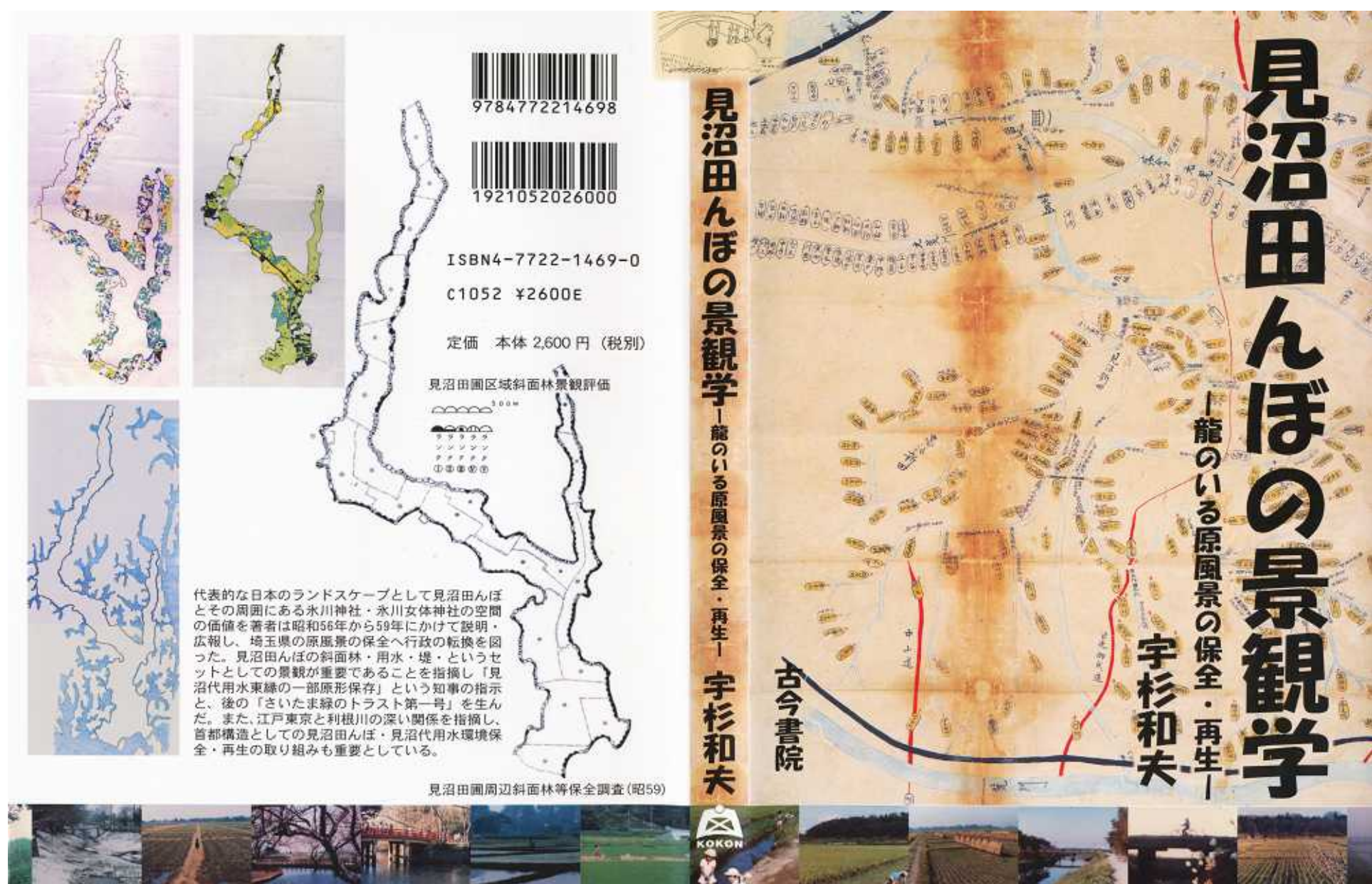


見沼田んぼ（昭和58年）





見沼田圃周辺斜面林等保全調査（昭和59年）



見沼代用水路絵図  
（近世、西角井家文書、埼玉県立文書館保管）



場所の原風景：第1回  
埼玉会館 県立浦和図書館  
2007年8月21日～9月2日

070829  
埼玉

浦和区

来月2日まで  
場所の原風景展

明治以来、埼玉県の教育や行政の中枢施設が数多く作られてきたさいたま市浦和区の高砂地区。この地の土地利用と建築物の歴史を振り返る展示

会「場所の原風景―埼玉会館・県立浦和図書館」（「さいたまの森アーカイブ」主催）が、県立浦和図書館階段ギャラリーで開かれている。

現在、埼玉会館と県立浦和図書館がある場所には、かつて「鳳翔閣」という建物があつた。県師範学校の校舎として一八七八（明治十一）年に建設された後、一九三三（大正十二）年の昭和天皇御成婚を記念した埼玉会館建設に伴い、師範学校は常盤地区に移転。鳳翔閣は女子師範学校に、さらに二五年には県内初の県立図書館として生まれ変わった。鳳翔閣は現在、さいたま市立浦和博物館

同展ではこの鳳翔閣や旧埼玉会館の歴史をパネルなどで解説。また江戸末期の「中山道分間延絵図」などの貴重な資料も公開している。

「さいたまの森アーカイブ」は、さいたま市を中心にした地域・地区の土地や建物の記録収集・展示・継承を目的に、日本大学理工学部の子杉和夫助教らが設立。今回の展示は第一回で、メンバーの松田完司さんは「木造建物が多い日本では、市街地の昔の風景は消えていってしまう。伝統ある場所の歴史を振り返り、将来の街づくりに役立ててほしい」と話している。

同展は、九月二日まで。  
（高橋 功）

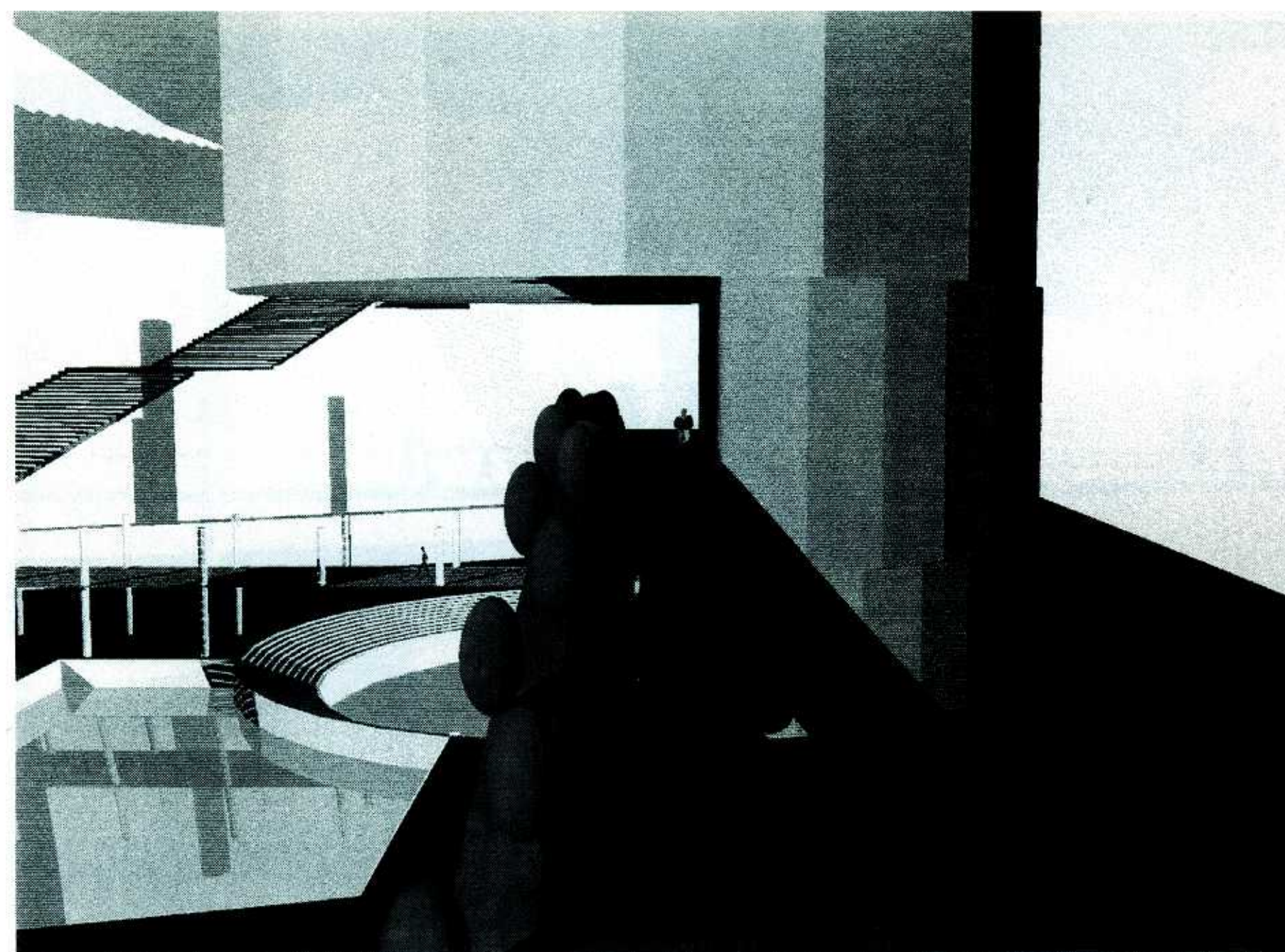


かつての県師範学校「鳳翔閣」など、土地と建物の歴史を振り返る「場所の原風景」展―さいたま市浦和区の県立浦和図書館

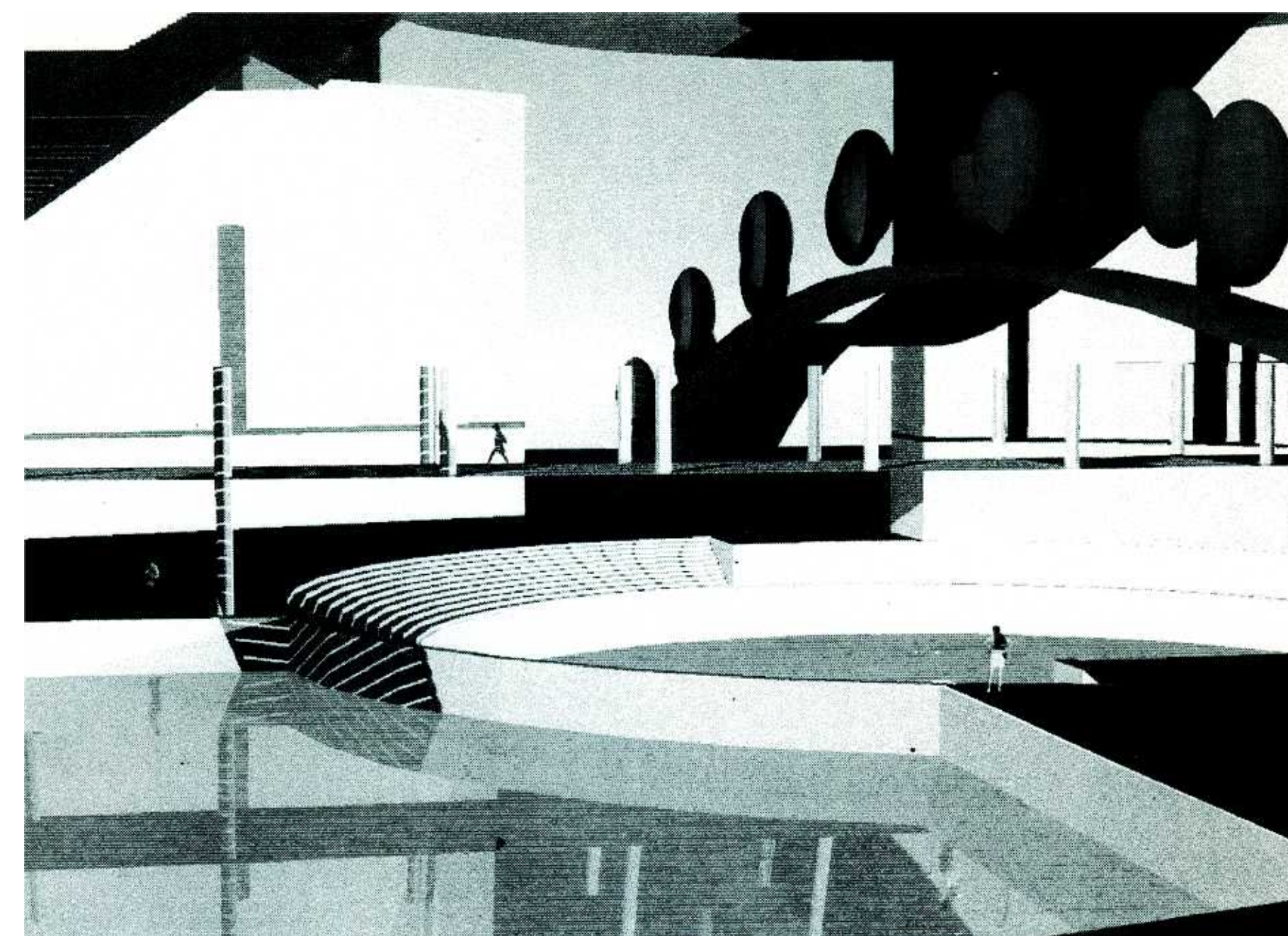


# さいたま新都心 に沼広場 田んぼ広場を 提案

アメニティパーク：さいたま景観・環境学習都市構想

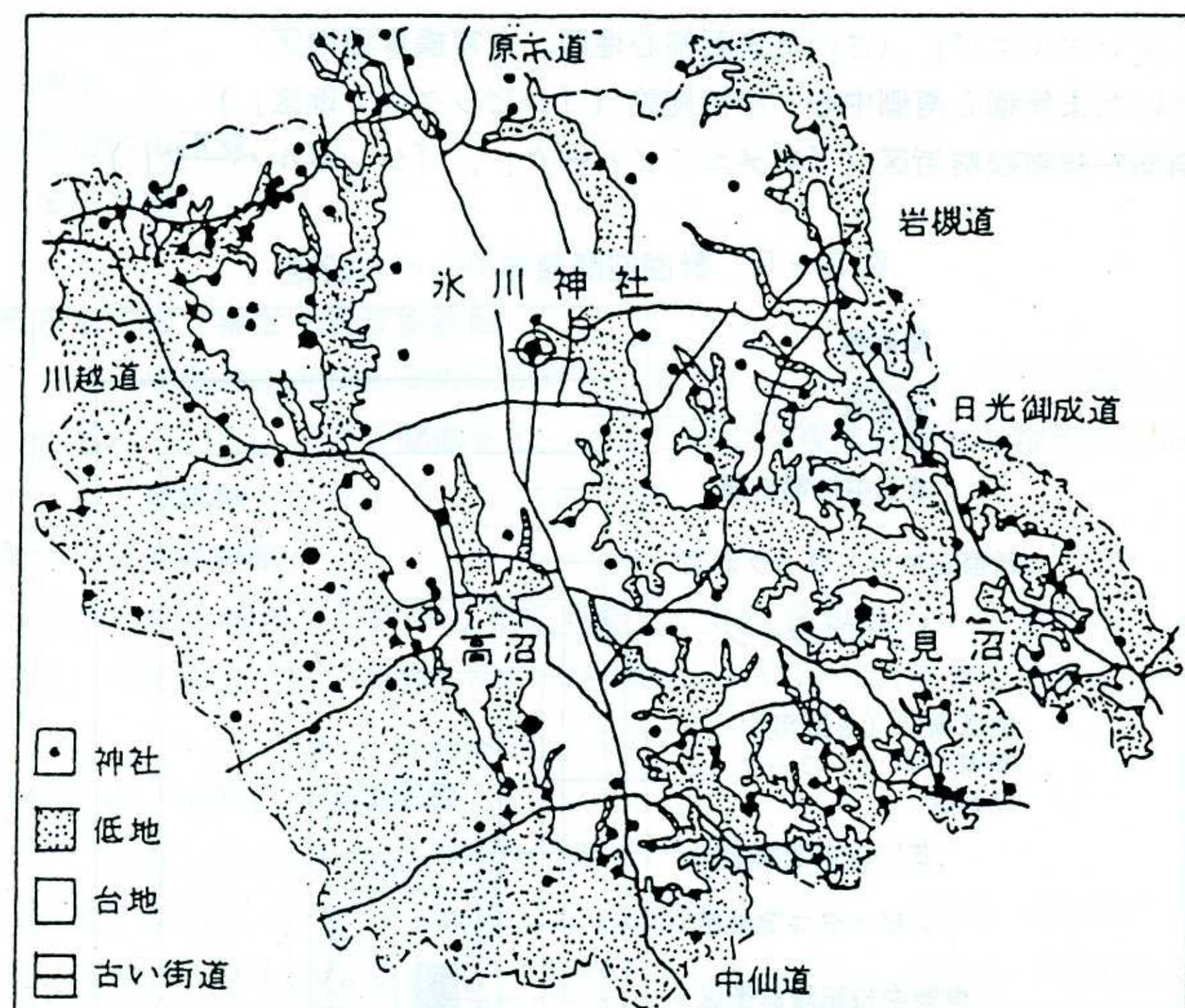


「ウチとソトのふれあいアクセス」  
と  
「聖なる沼の原風景」

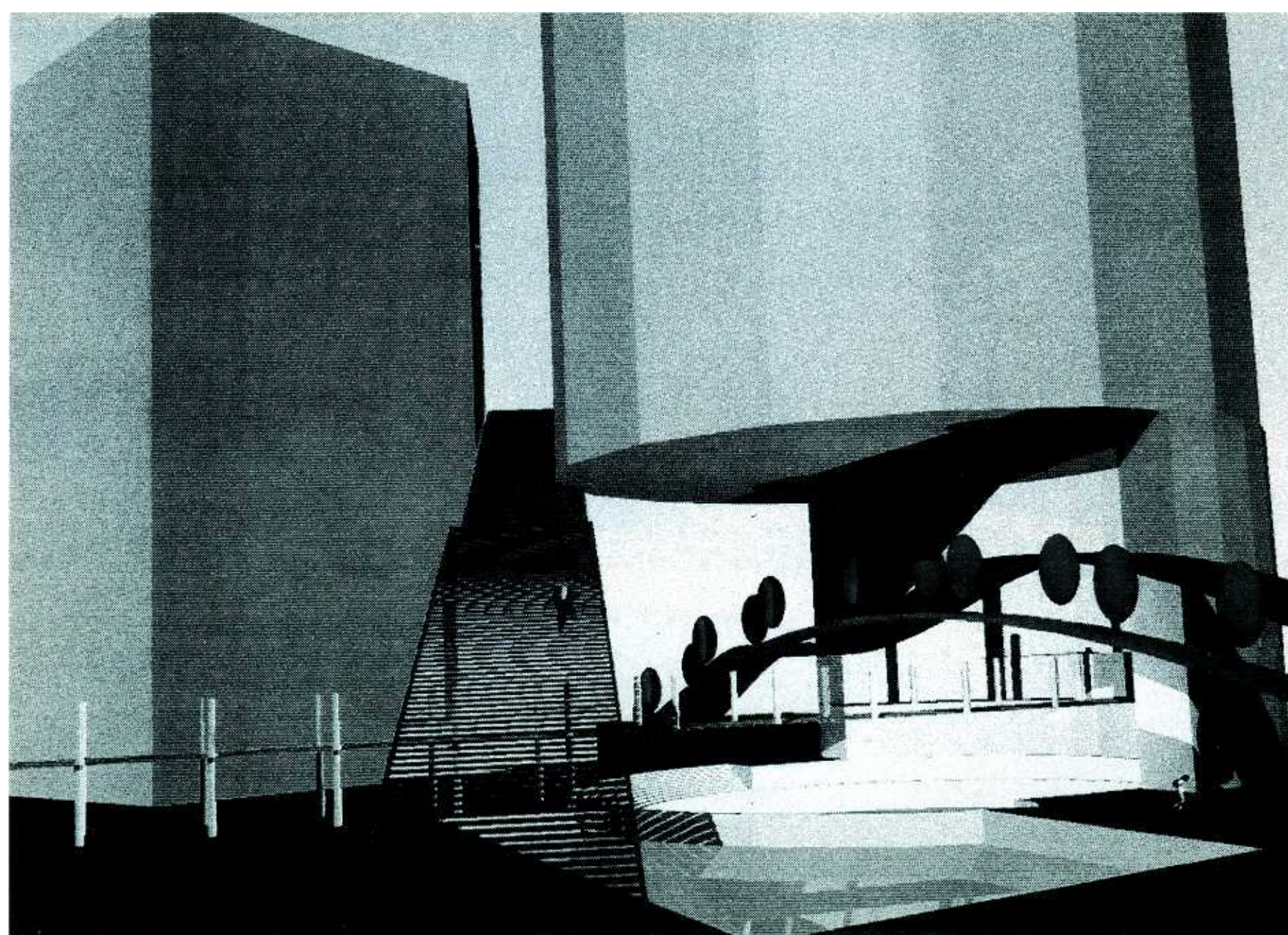


「サークルの水の劇場」  
と  
「聖なる沼の原風景」

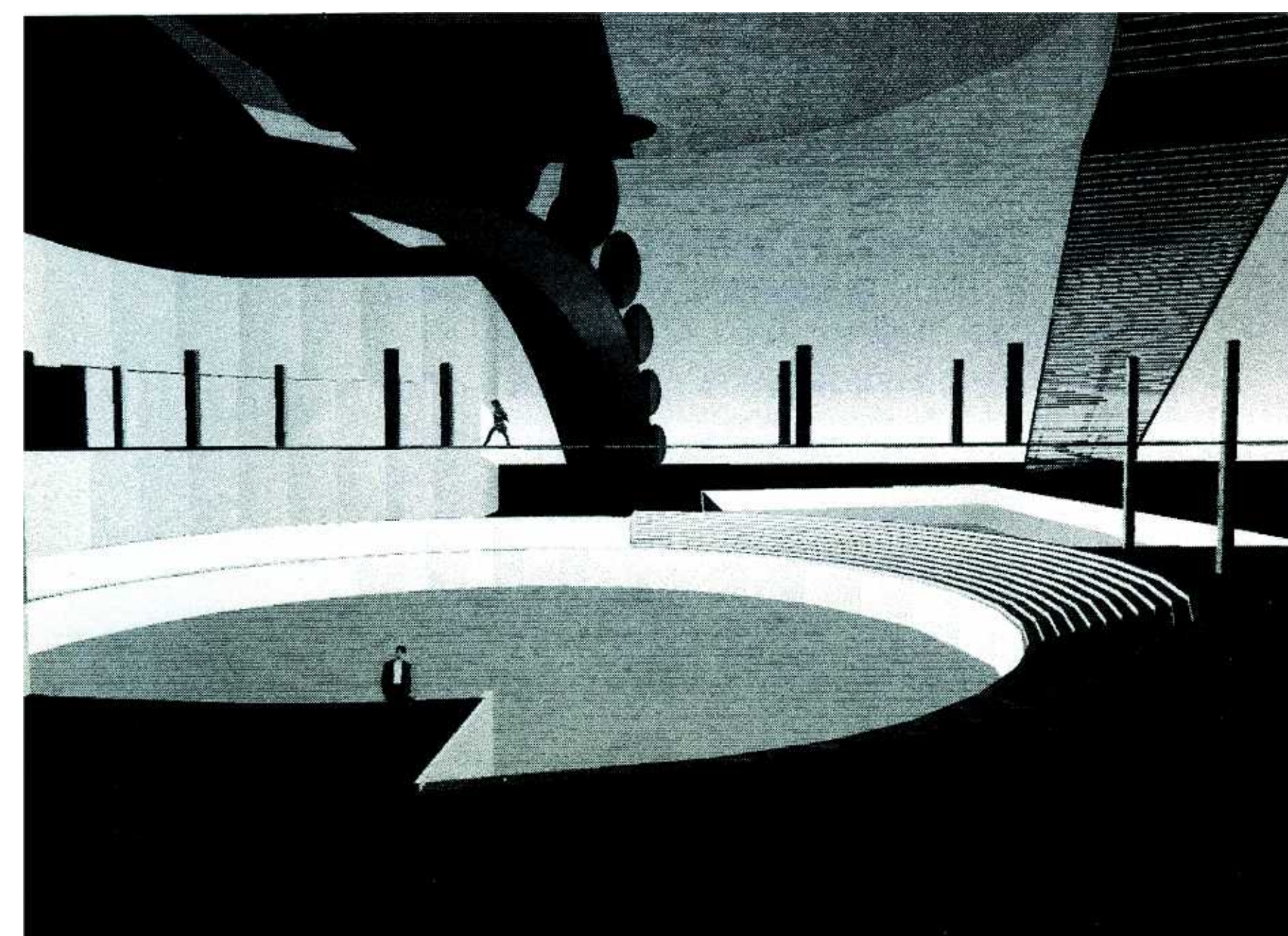
見沼・高沼と氷川神社  
—「近代以前の街道と神社、大宮市・与野市・浦和市」—



『見沼田圃論集第2集』昭和60年



「高沼－氷川軸階段テラス」  
と  
「聖なる沼の原風景」



「サークルの水の劇場」

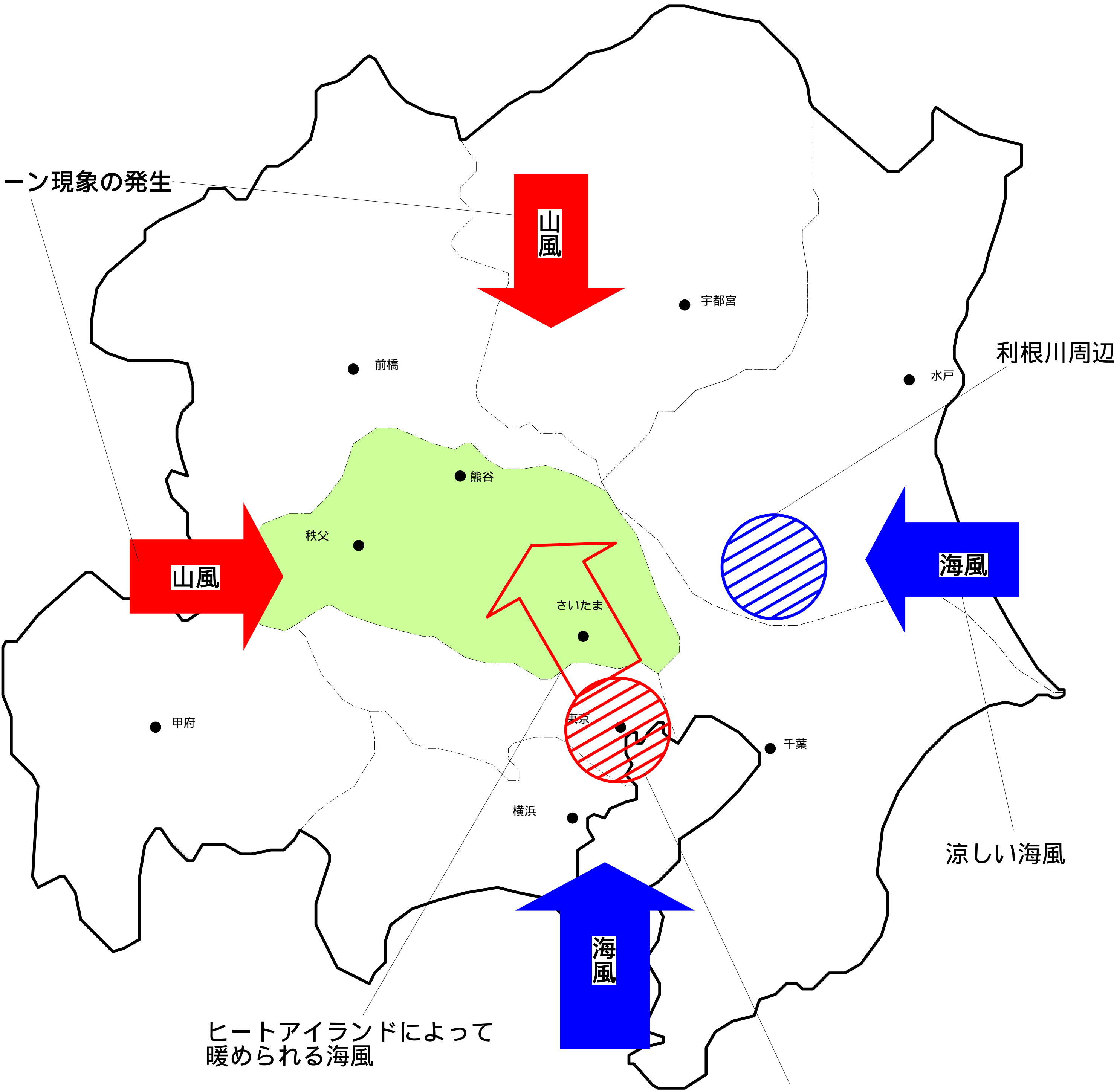


風の影響

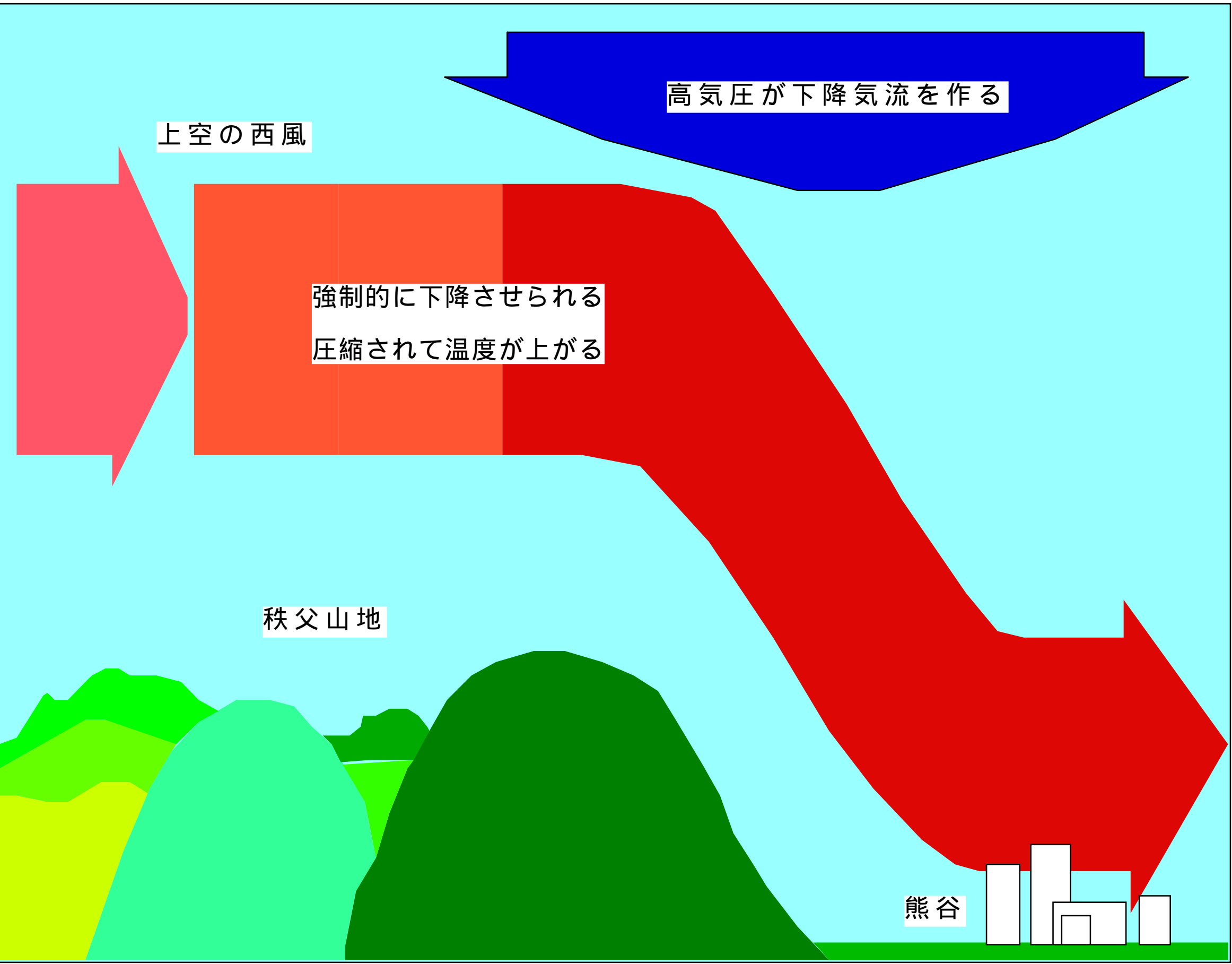
フェーン現象

昼間に吹く南よりの風が、東京などの大きな都市を通ってくる間にどんどん暖められて、さいたま付近に来たときには、とても熱い風となって気温を上げる。

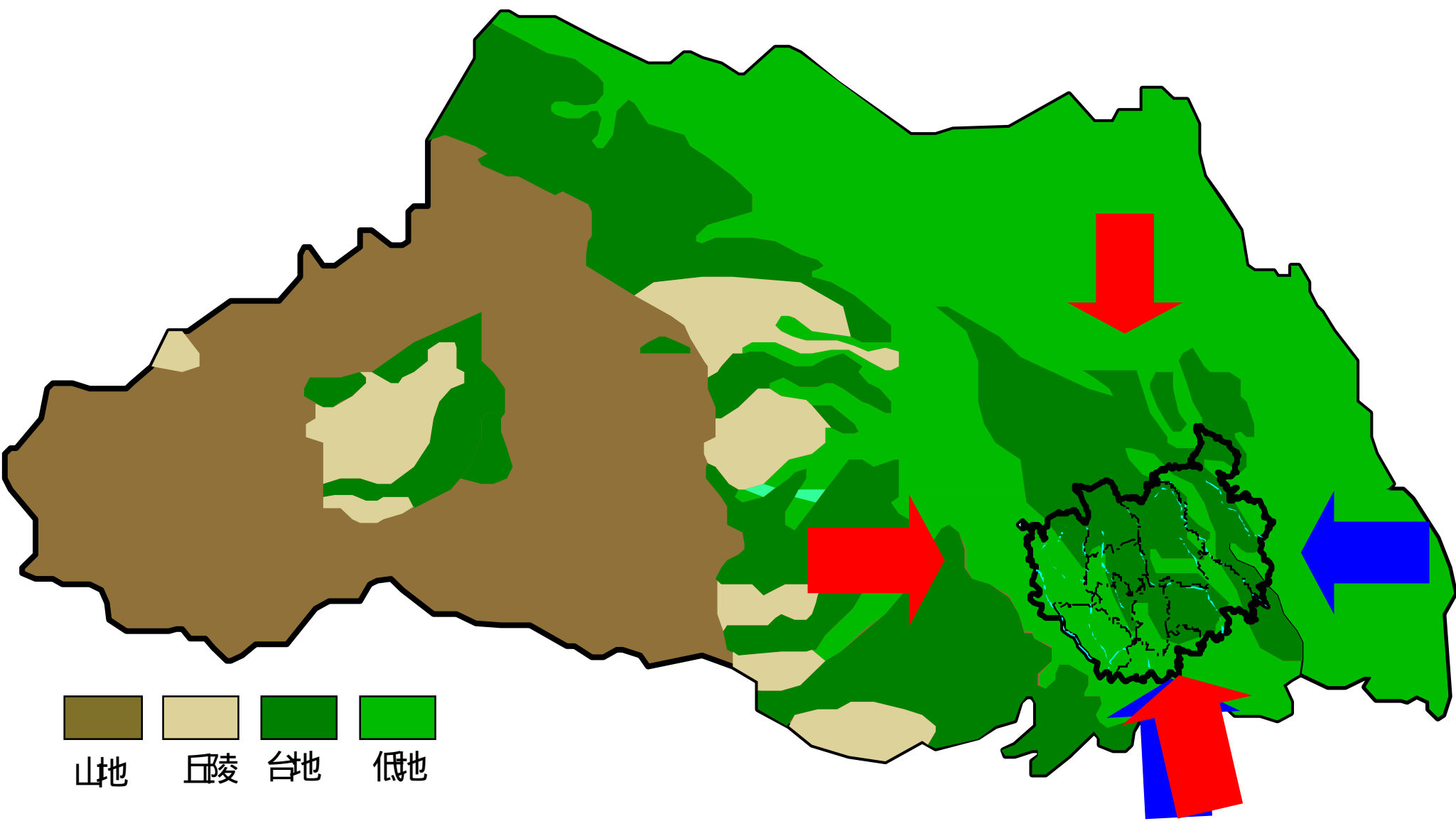
フェーン現象の発生



東京都内でのヒートアイランド現象

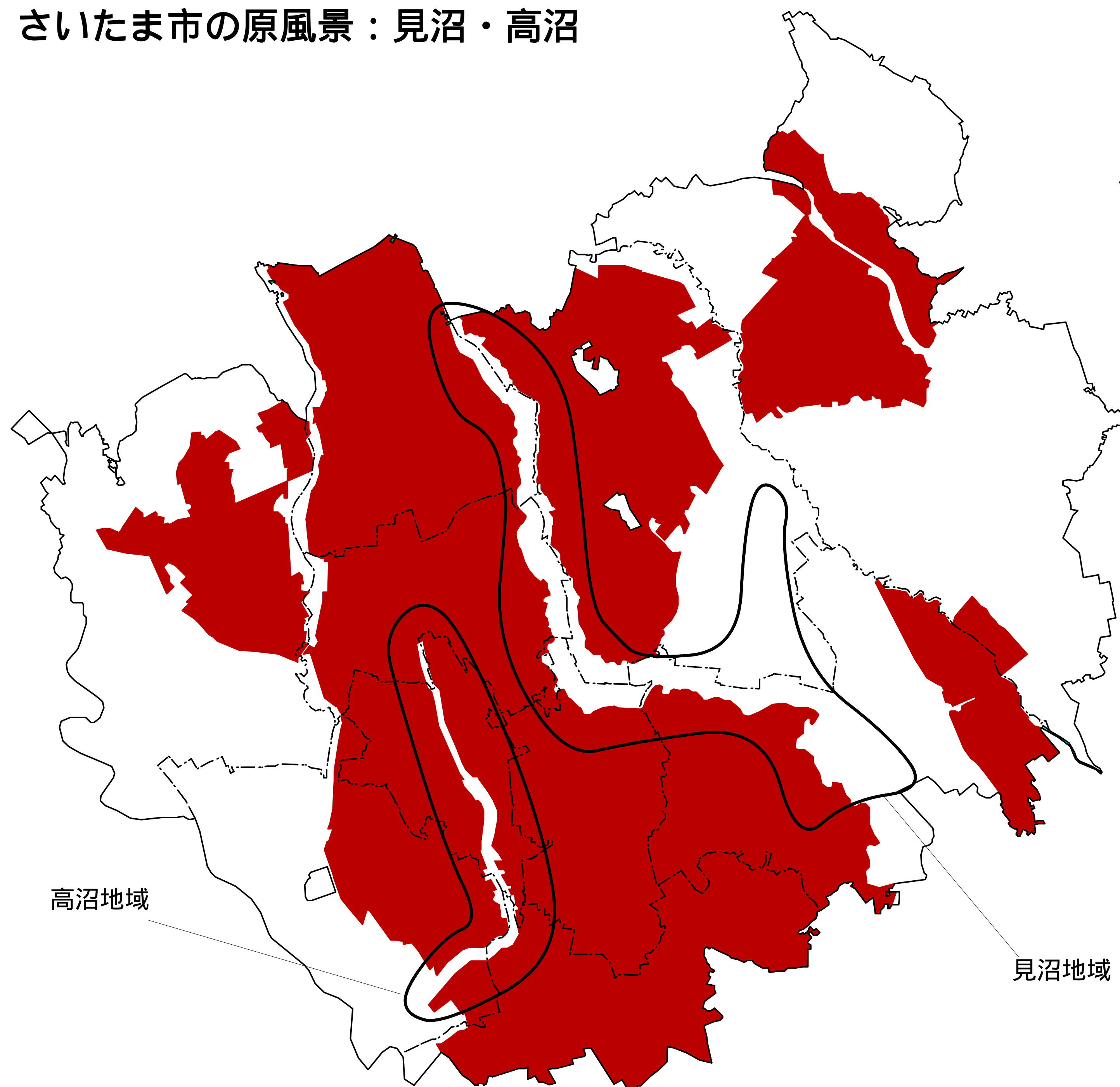


地形



関東平野に位置するさいたま市には山岳・丘陵といえる地域は存在せず、全域が台地及び低地からなる。海拔が20mを超える地区はほとんどない。荒川の近い市西部に低地が広がるほか、元荒川や芝川、綾瀬川などの中小河川周辺に谷状の地形がみられる。市中央部・東部はこのような低地・谷地を除けば市の北方から市南部に連なる大宮台地上に位置する。主な河川は殆どが北から南に流れており、東西に並列している。

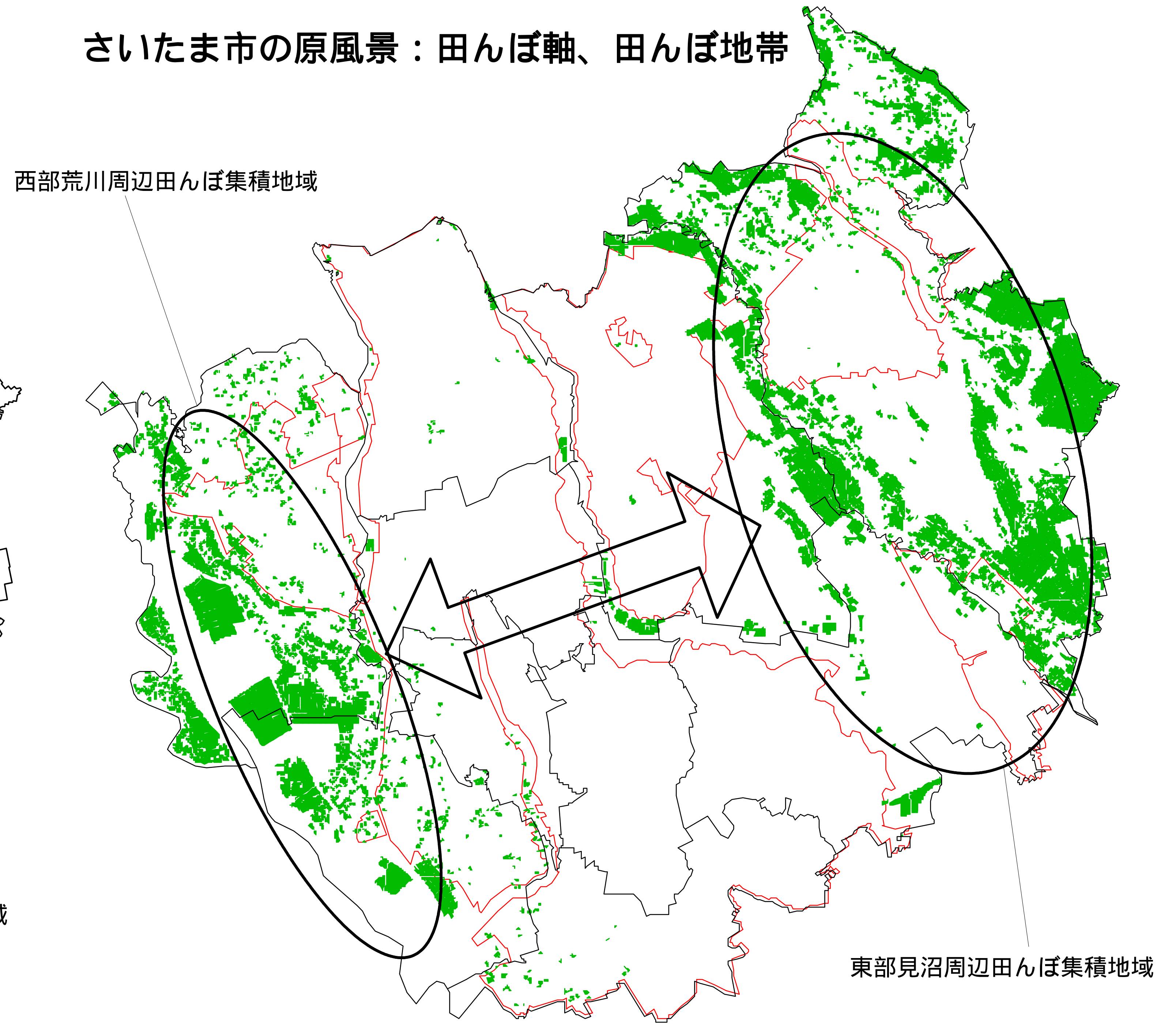
## さいたま市の原風景：見沼・高沼



### 街の中に入り込んでいる高沼・見沼

市街化区域の中に見沼地域と高沼地域が食い込んできていることがわかる。

## さいたま市の原風景：田んぼ軸、田んぼ地帯

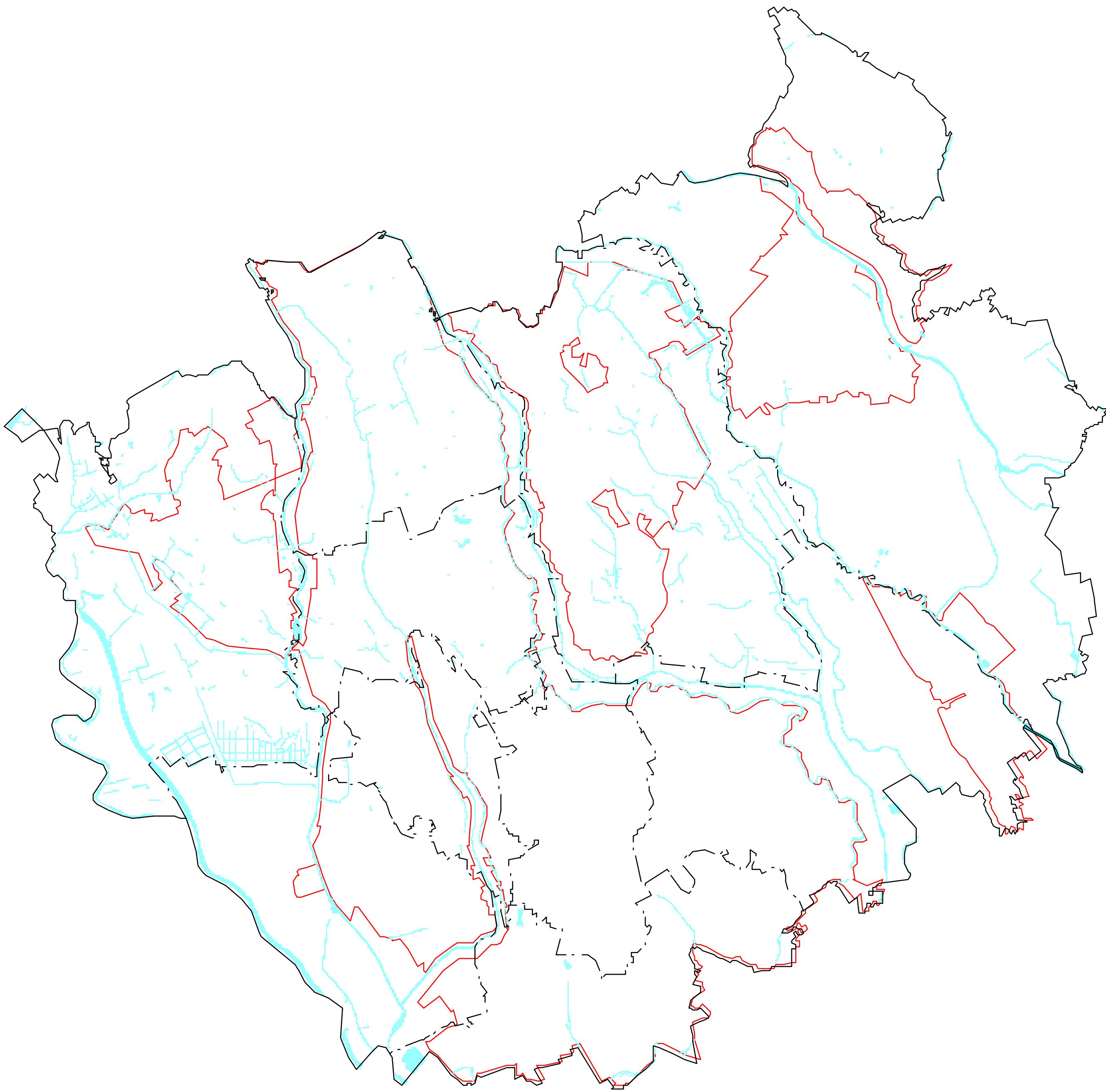


### 東西の田んぼ遅滞を結ぶ水と緑と風の田んぼ軸

市街化区域外にはまだまだたくさんの田んぼが分布していることがわかる。  
特に西側の西区と東側の岩槻区は広大な田んぼ地帯がある。



さいたま市の原風景：谷地と水路と風

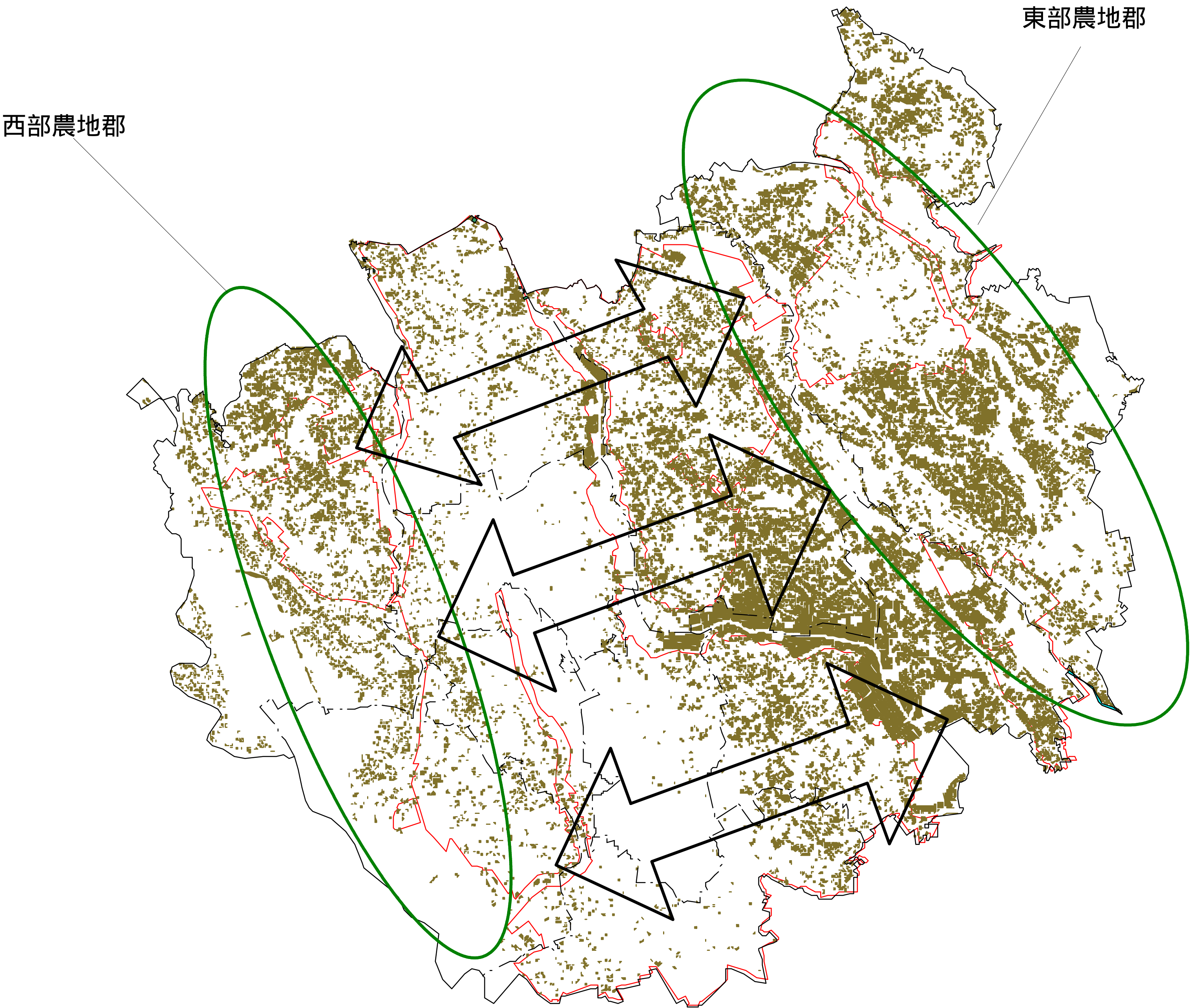


谷地と水と緑と風の道の再編成

さいたま市の主要河川（一級河川）は、荒川、芝川、鴨川、綾瀬川、鴻沼川、笹目川、元荒川などである。これら主要河川と他の水路を風の通り道とした時、田んぼで作られた冷涼な空気を都市部に運ぶことができる。特に東京湾に注ぐ荒川は、海からの風を運んでくることも期待できる。

近年、都市部では川を地中に隠してヒートアイランドを助長してきた。

さいたま市の原風景：街の中の農環境農風景



東西の農業空間を結ぶ街の中の連絡軸

田んぼ分布図と比較してみるとたくさんの畑がある。東側の岩槻区では今でも田んぼが多く残されていることから畑に転換した地域が多いこれら畑の区域を田んぼに復元していくことも必要。特に見沼田んぼでは農地転換が際立っているのでこれらの再生・復元も重要な課題となってくる。

また、田んぼとは異なり市街化区域内にも多くの畑が残されている。



## 見沼田んぼ・高沼田んぼ

見沼田んぼは、東京都心から20～30km圏内にあるにもかかわらず約1260haという広大な面積を持つ、首都近郊における貴重な大規模緑地空間。さいたま新都心駅や大宮駅などの主要駅から2～3kmという近さにありながら、たんぼや畑、雑木林、河川や見沼代用水によってつくられる田園風景と、生きものを育む豊かな自然が現在も残されている。しかし、田んぼそのものは年々減少傾向にあり、畑への転換や宅地になっていく様子が目立つ。



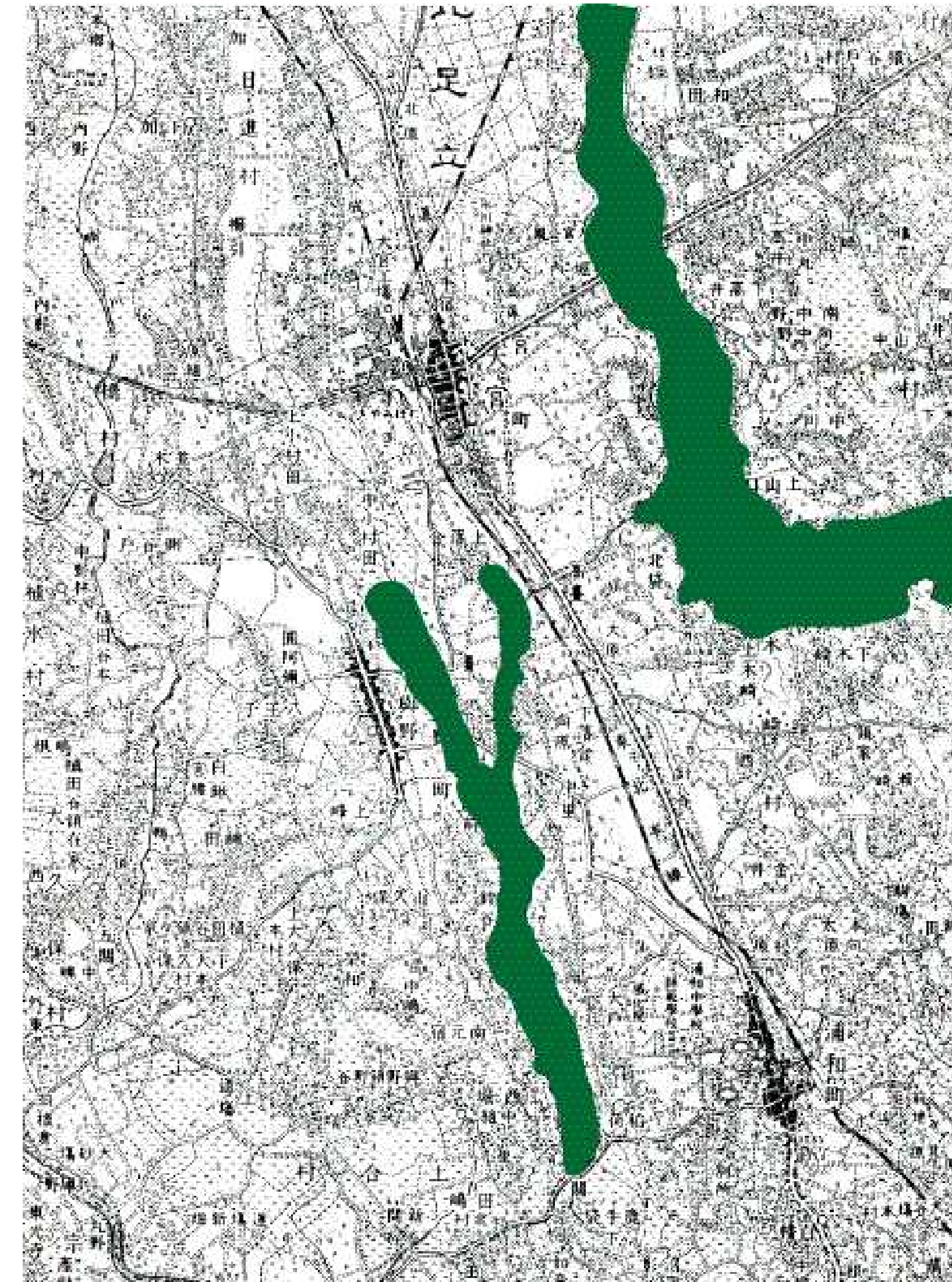
高沼は、埼玉県さいたま市の旧与野市から旧浦和市にかけて幅が100～400m、長さが4km、約75haに渡って広がっていた沼である。市内にある見沼、伝右衛門沼に次ぐ大きさだったと言われている。江戸時代に干拓され、田んぼとなり、現在は宅地化が進む。現在も地名などに残る。高沼（こうぬま・たかぬま）とも呼ばれている。

河童や竜が住み着いているという伝説が数多く残っている。沼には竜神が住んでおり、その竜神は見沼の主でもあり、二つの沼を暗雲に乗り、行き来していた。鴻沼は東京湾まで通じる大きな沼だった。河童はあちこちにて、馬を引きずりこんだり、子供の尻児玉を抜いたり、いたずらをしていた。

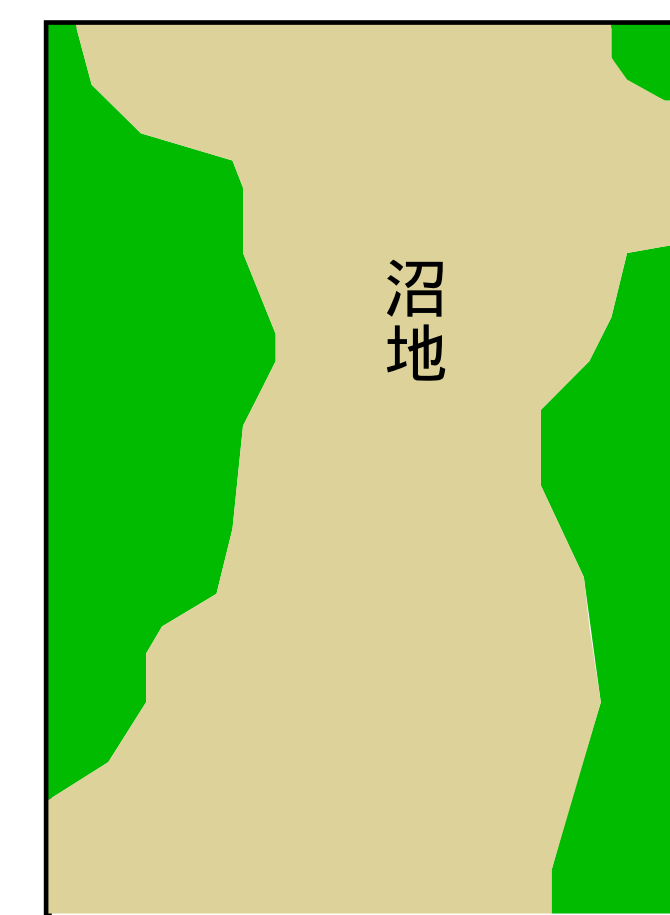
。長伝寺（中央区本町東）の欄間の龍は大雨の夜に寺を抜け出し沼の水を飲み続け、洪水を防いだ。など、当時の様子が感じられる話が多い。

## 見沼の原風景 高沼の原風景

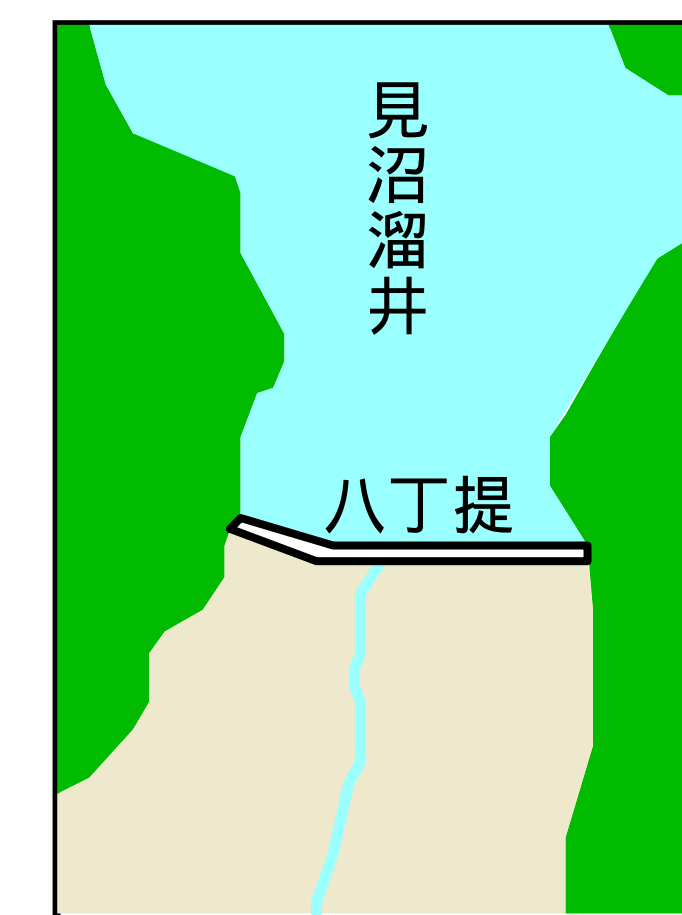
## 見沼代用水東縁、西縁の原風景 高沼用水東縁、西縁の原風景



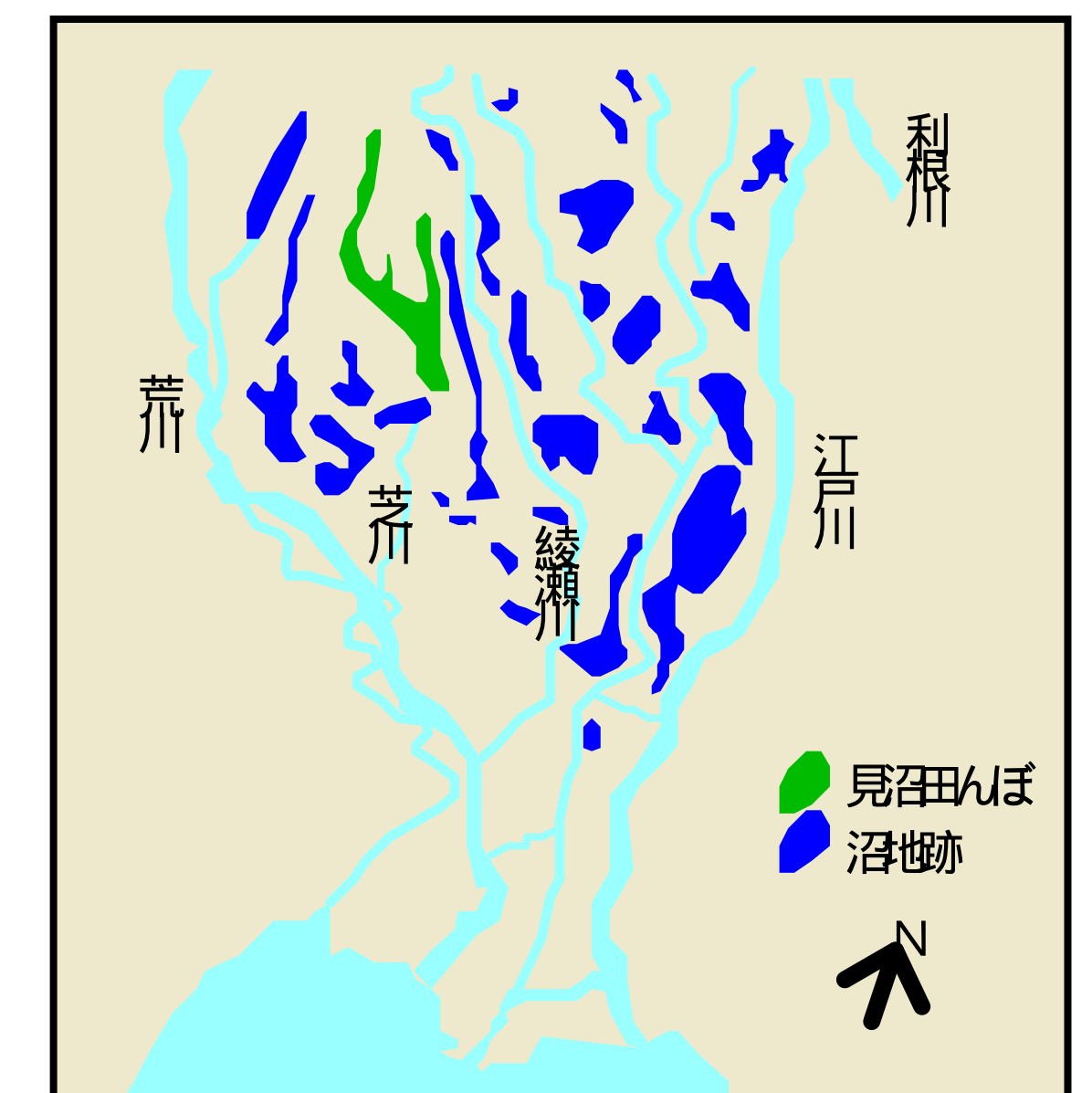
明治末年頃 大宮・与野・浦和  
(5万分の1地形図「大宮」明治45年修正、原寸)



八丁提が作られる前



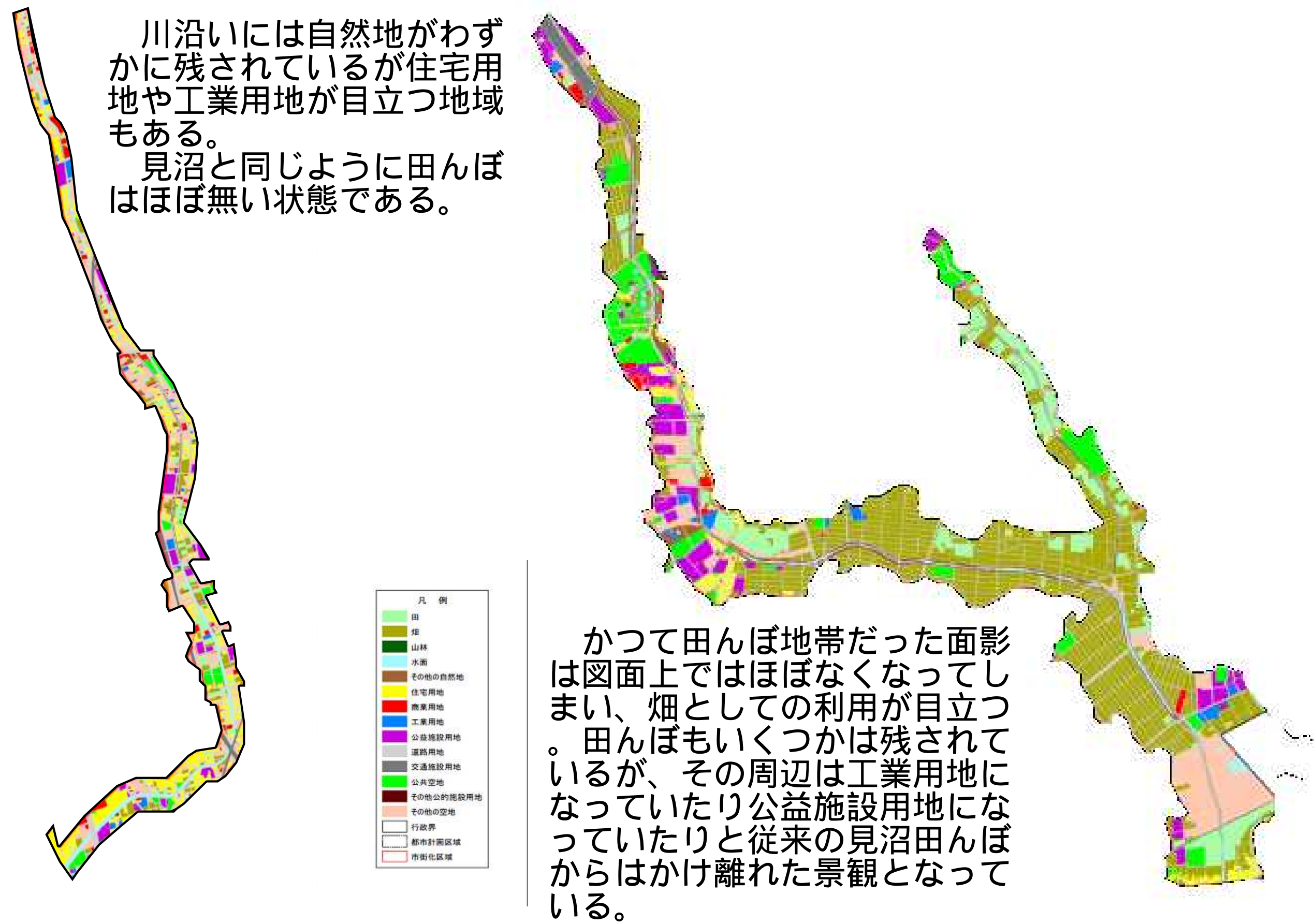
八丁提が作られた後



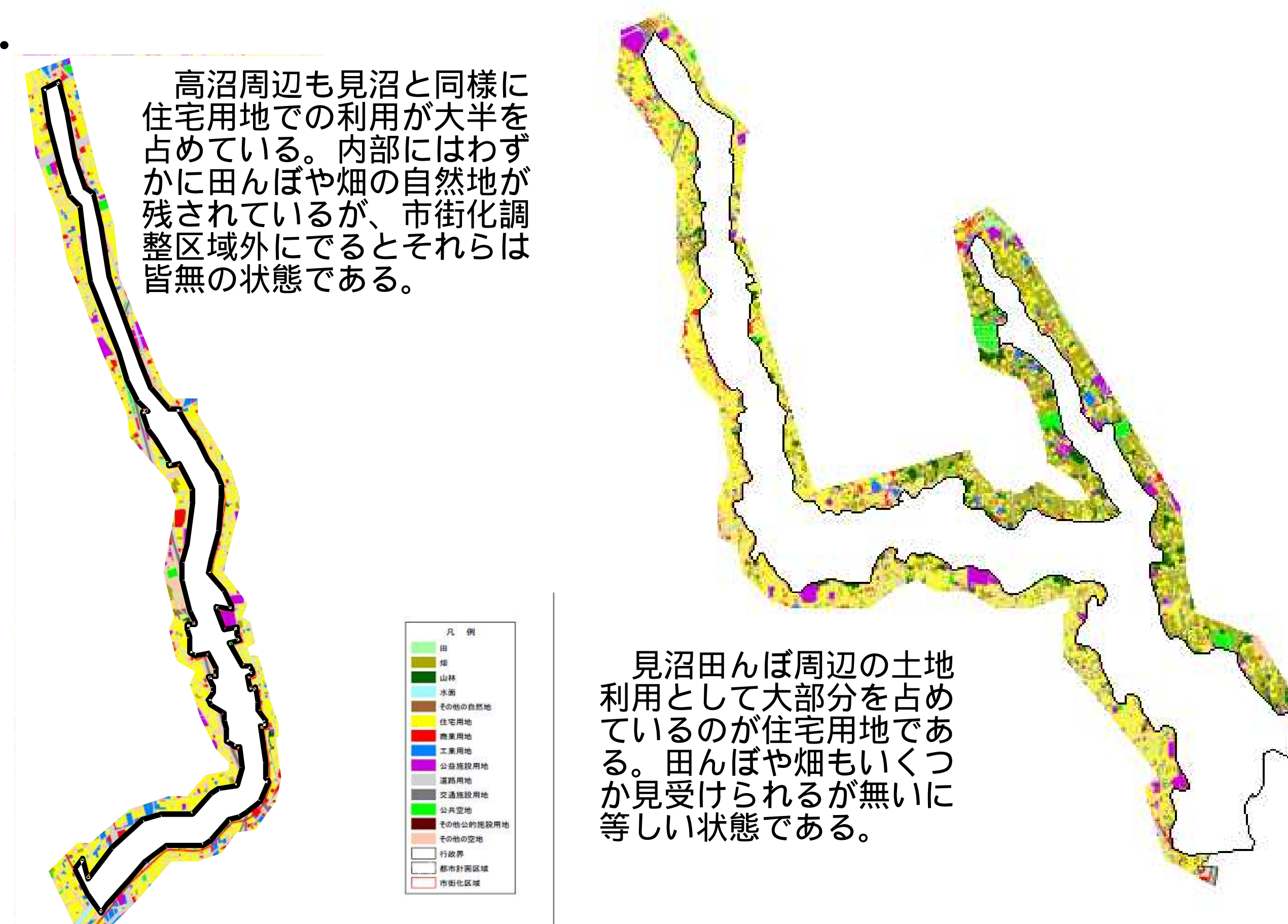
参考資料：さいたま市 見沼田んぼのホームページ  
<http://www.minumatanbo-aitama.jp/index.htm>



見沼・高沼田んぼ土地利用図

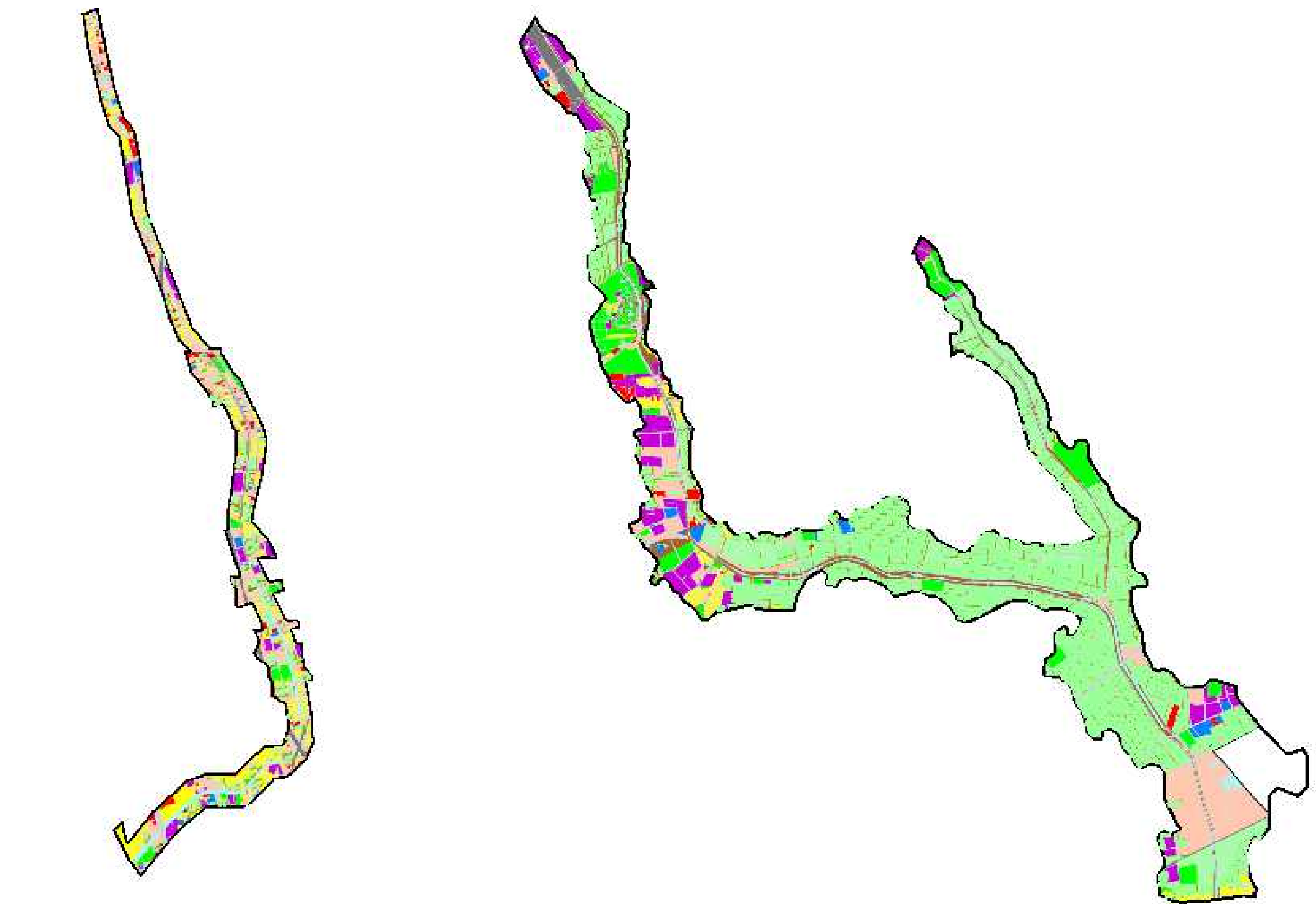


見沼・高沼田んぼ周辺土地利用図



見沼・高沼田んぼ復元図

田んぼであったと考えられる箇所が畑へと農地転換や荒地となっている。見沼田んぼという市民県民の共有できる田んぼの再生が望まれる。  
田んぼを保全しつつそれを活かしたまちづくりを行い、ヒートアイランドを緩和するための策を練っていく必要がある。それを行うためには見沼田んぼと高沼田んぼの再生が必須条件となる。自然のクーラーである田んぼ地帯が蘇れば、それだけで周辺の気温は引き下げられると予測できる。さらには、冷却された空気を市街地へ流すまちづくりを行っていけば、真夏の市街地の気温は多少冷やされるに違いない。



見沼と同様に畑から田んぼに復元した場合の図である。見沼ほど多くはないが小さな田んぼがたくさん点在している。これらを連動させて都市と複合することで確実に効果が得られる。

現在、畑になってしまった箇所をすべて田んぼに復元した場合の図である。非常に大きな田んぼ地帯ができることとなり、市街地との複合を図ることができればヒートアイランドの緩和に繋がることが予測できる。



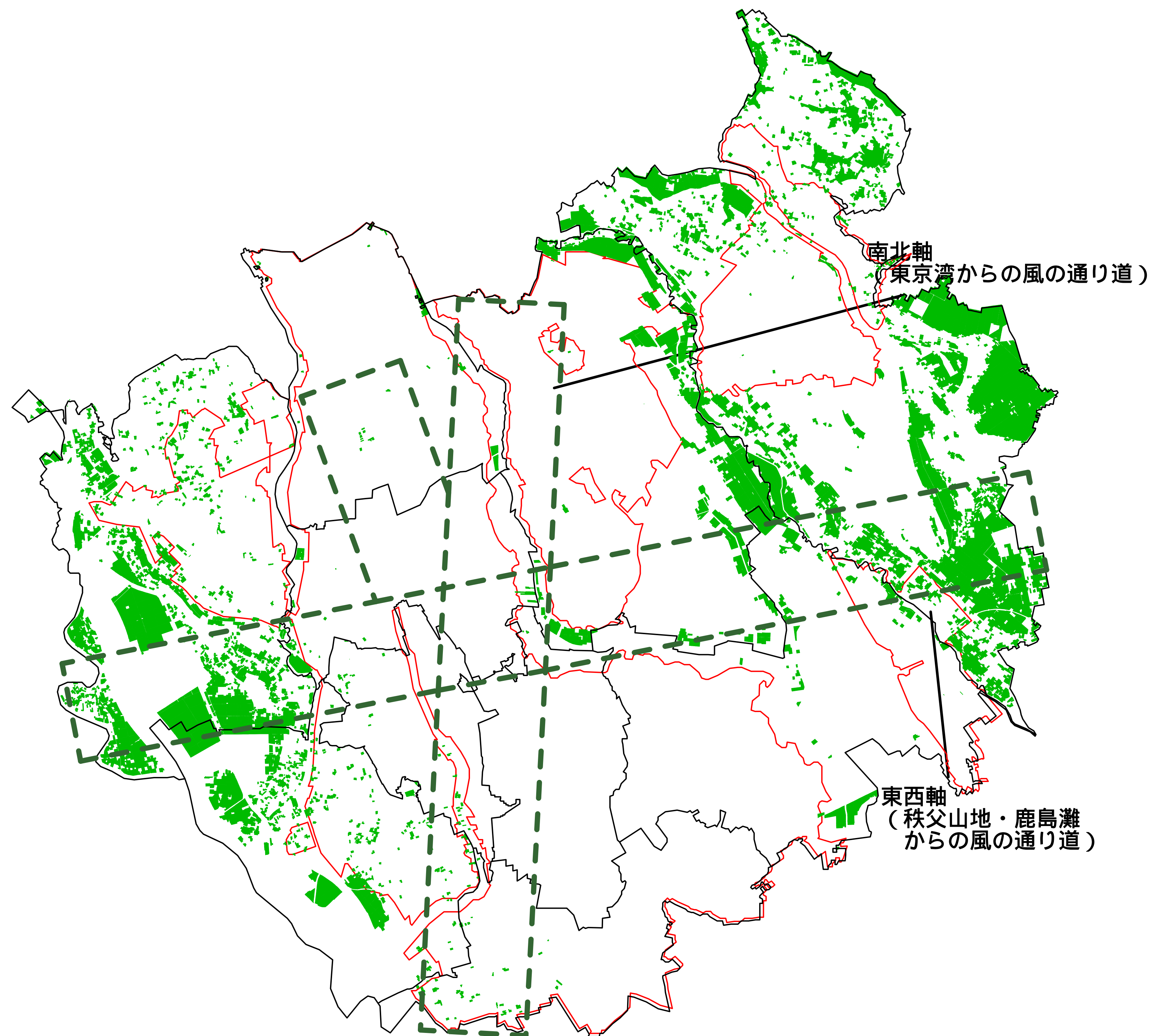
## 水と緑のコリドール構想（さいたま市構想）



見沼田んぼを中心として、荒川と元荒川を結ぶみどりのつながりを確保することで、みどりの骨格軸を通して風の道を形成する計画。

## さいたま田んぼ十字軸構想

さいたま市のコリドール構想に十字軸構想を組み合わせた高度複合型の都市。都市と都市周辺の田んぼ（自然）を複合させることを目的とする。南北軸、東西軸共に風の通り道となり冷涼な空気が市街地へ導かれる。





高度複合型案をさらに7つのゾーンに分割した図。荒川ゾーンや東部ゾーンに関しては現状でも田んぼ地帯が残されているので大きな計画というのは必要がないと考えられる。しかし、これらを市街地である中央ゾーンにどう融合していくかが最も大きな課題として挙げられる。市街地そのものの計画というのも必要だが、前章でも取り上げた見沼田んぼと鴻沼田んぼの再生は、この計画になくてはならないものでもある。

#### 南北軸

##### 見沼北ゾーン

- 見沼田んぼの再生
- 畑を田んぼに復元
- 一級河川芝川を中央ゾーンまでの南北の風の通り道とする。
- 川沿いの緑地確保

##### 鴻沼ゾーン

- 鴻沼田んぼの再生
- ・マンションの乱立を制御し鴻沼地区をコンパクトに
- まとめて周辺に再生させた田んぼなどの緑地を残す。

#### 東西軸

##### 荒川ゾーン

- ・現在残されている広大な田んぼ地帯の保全。
- ・都市部連結を図るために
- 沿道の緑地開発をすることで冷やされた空気を都市部に流れ込ませる

##### 見沼東ゾーン

- ・と同様に見沼田んぼの再生
- ・住宅、大型建築物の乱立を防止する
- ・緑と水の軸形成
- 田んぼと芝川

##### 東部ゾーン

- ・の地区同様に田んぼ地帯の保全
- ・見沼東ゾーンとの連動を図るための軸作り

#### 重複地点（都市部）

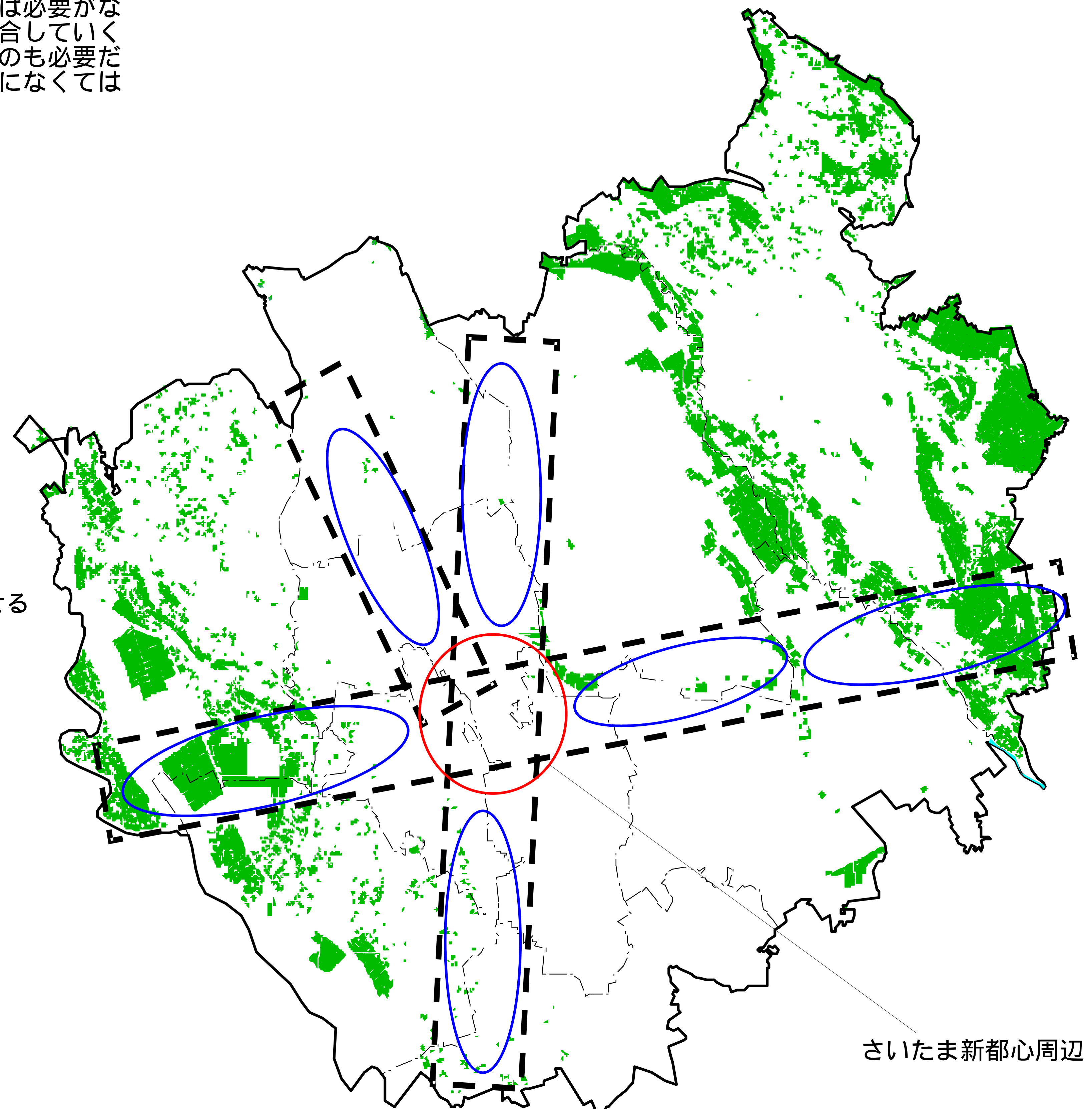
##### 中央ゾーン

- 南北軸と東西軸の交点である市街化地区
- 沿道緑化、屋上緑化
- 壁面緑化、都市公園、分散緑地の整備強化

#### 斜め軸

##### 見沼西ゾーン

- ・見沼北ゾーンとの連動を図ると共に沿道、沿線の緑地確保。
- ・都市公園が少ないため整備を進める。





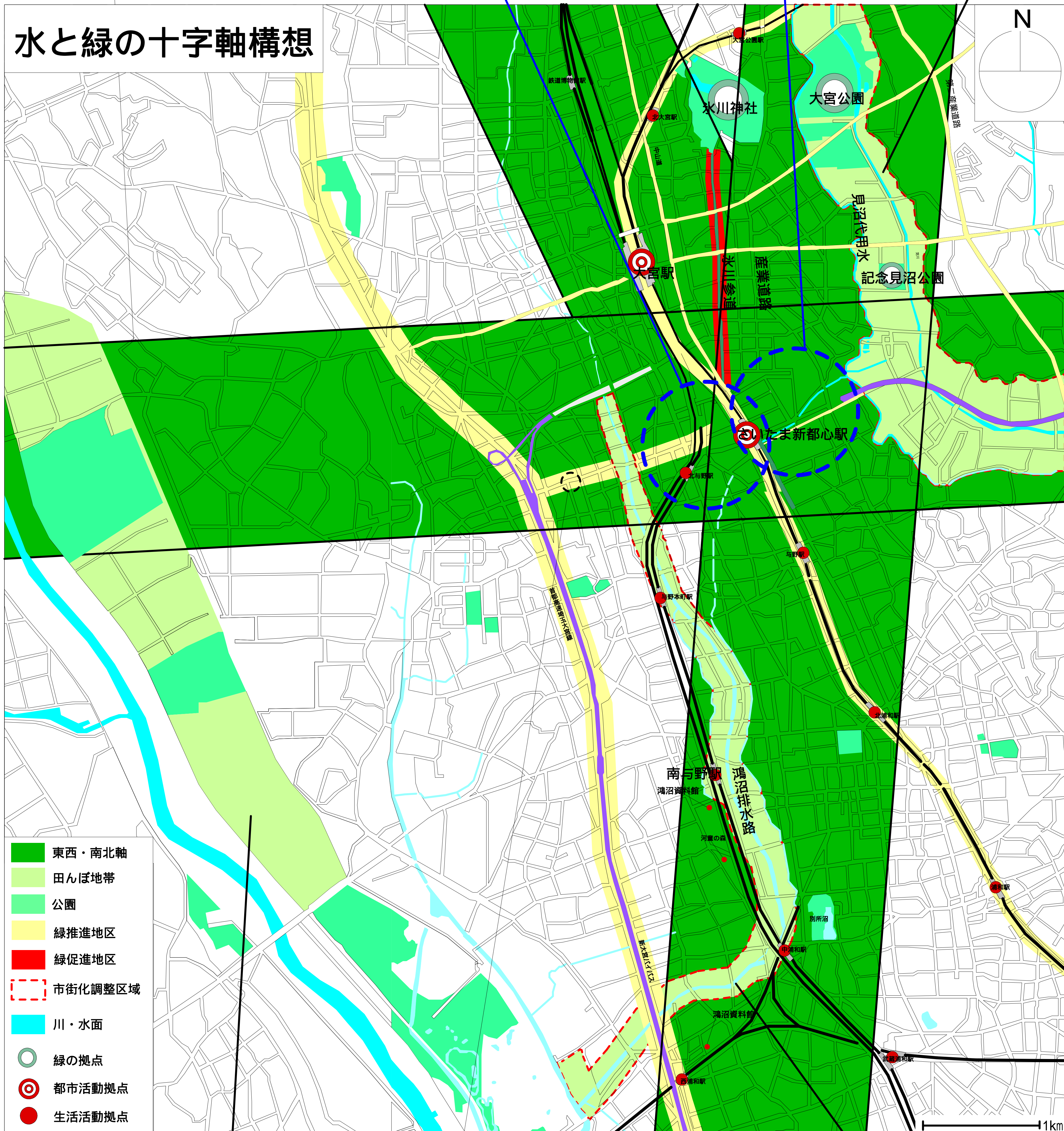
東西軸  
(秩父山地・鹿島灘  
からの風の通り道)

水緑高度複合地区 A  
(沼広場・田んぼ広場)

水緑高度複合地区 B  
(水路プロムナード)

見沼田んぼ地区

## 水と緑の十字軸構想



西部荒川周辺田んぼ集積地区

南北軸  
(暖かい海風・山風の通り道)

高沼田んぼ地区

冷却された空気

風

風の通り道

風

冷却された空気

田んぼの復元

都市公園の整備

屋上緑化

屋上田んぼ